

持続発展教育(ESD)の理念に基づいた

途上国における地域医療教育モデルの構築

三重大学大学院医学系研究科

武田裕子

1. 目的

本事業は、途上国の医学部で行われている地域医療実習(地域基盤型医学教育 Community-based Medical Education)が持続発展教育(ESD)となるよう、モデル・カリキュラムを開発してその導入をはかることを目的としている。地域基盤型医学教育では地域が学習の場となるが、保健・医療機関や福祉施設で実習が行われることが多い。一方、住民が真の意味で健康に過ごすための前提条件には、平和、教育、安定した環境、持続可能な資源、社会的公正と公平など多様なテーマが含まれる。ESDという枠組みで地域医療実習を捉えなおすことで、学生が地域の環境、経済、社会、文化に目を向け、health advocate としての医師の役割についてより深く学ぶことになる。こうした教育は、医療過疎地で働く医師の育成にもつながる可能性がある。さらに、学生が地域の健康課題に応じた住民参加型のプロジェクトを展開することで、地域住民にとっても ESD に触れる機会となる。地域における医学教育への協力は、住民のエンパワメントにもなると期待する。

2. 活動

対象地域: タイ・コンケン大学, タンザニア・ムヒンビリ健康科学大学, アラブ首長国連邦シャルジャ大学

(1) モデル・カリキュラムづくりのためのワークショップの開催(本邦研修)

2009年1月に、ワークショップ(WS)を三重県で1週間開催した。WSには、タイ、タンザニア、アラブ首長国連邦で地域医療教育に携わっている教員を招いた。国内からも、ESD、国際保健医療分野、医学教育カリキュラム開発等の多様な知見を有する大学教員の参加を得て、シャルジャ大学も含め各大学の地域医療教育に関する知見を提供し、医学教育におけるESDの位置づけについて活発な意見交換を行った。

(2) ESDの理念に基づいた地域基盤型医学教育実習の手引(Student's GuideとTeacher's Guide)作成
WSのプロダクトとして、ESDを導入・推進するための教材を作成した。WS終了時点ではドラフトであったものを、その後1か月かけて参加者が電子メールを用いて校閲を続け印刷版を作成した(成果物参照)。

(3) Action Planの作成と導入プロセスの検討

ワークショップ終了時に、コンケン大学とムヒンビリ健康科学大学においてどのようにESDを導入するか検討した。コンケン大学では新年度の実習からESDを組み込む予定。ムヒンビリ健康科学大学では、近隣ならびに周辺諸国の医学部教員の参加によるFDを計画している。両大学の実習を視察する相互訪問も検討中である。

成果

(1) 期待する成果: 卒前医学教育にESDが導入され、ESDへの教員の理解が深まり、SDの視点をもった医師の育成が進められる。また、学生の地域での活動を通して地域住民にもESDが広がることを期待する。

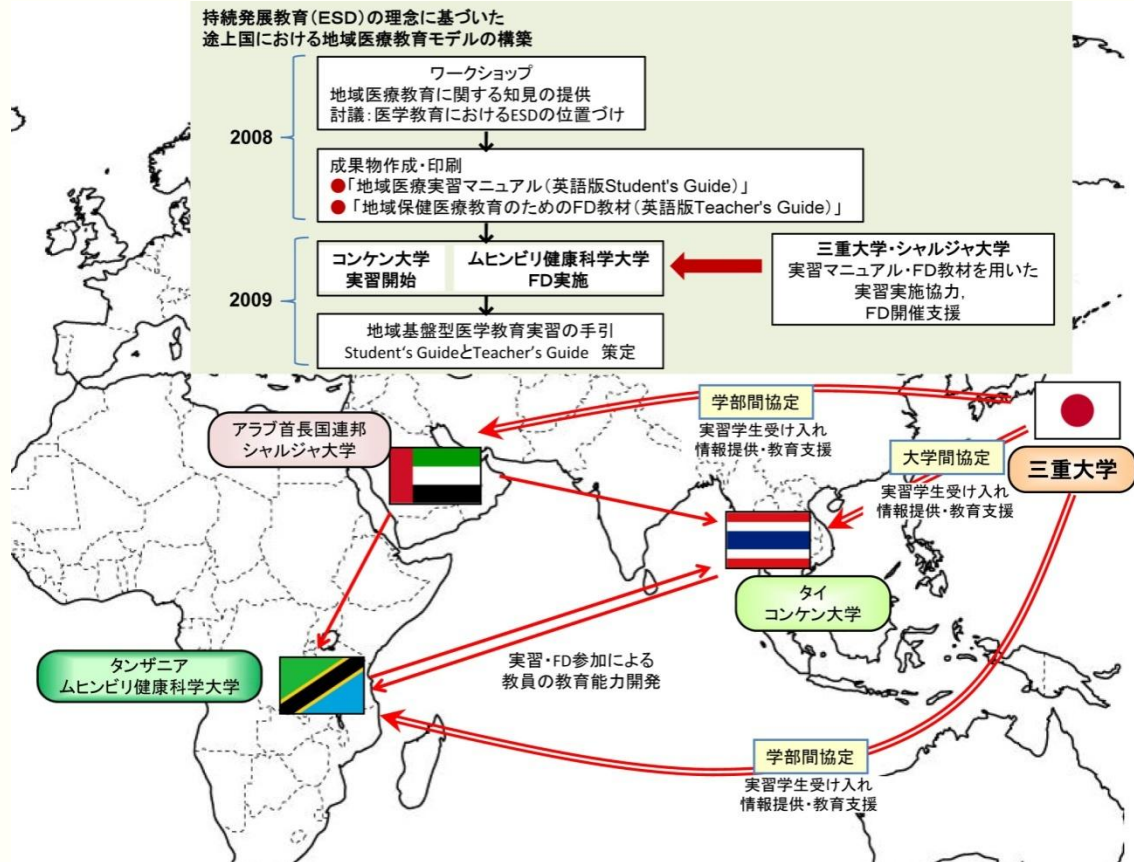
(2) 成果物: 地域基盤型医学教育のなかでESDを実施するための手引書として以下を作成した。

①「地域医療実習マニュアル(英語版 Student's Guide)」実習について概説している

②「地域保健医療教育のためのFD教材(英語版 Teacher's Guide)」実習担当教員の手引書でFDにも使用可能。どちらも今後実際に使用して、改訂していく予定である。

持続発展教育(ESD)の理念に基づいた 途上国における地域医療教育モデルの構築

三重大学



目的 : 途上国の医学部で行われている地域医療実習(地域基盤型医学教育Community-based Medical Education)が持続発展教育(ESD)の理念を推進するものとなるよう、教育モデルを開発して導入をはかる

活動 : ①ワークショップの開催(2009年1月18-23日於三重県)
地域医療教育に関する知見の提供・情報交換
医学教育におけるESDの位置づけ・地域医療教育への導入に関する意見交換
②ESDの理念に基づいた地域基盤型医学教育実習の手引作成(WS⇒電子メールで校閲)
③参加大学の2009年度アクション・プラン作成
…実習の導入(タイ), ファカルティ・ディベロップメント(FD)開催(タンザニア)
三重大学とシャルジャ大学は、実習実施支援とFD開催支援
④実習手引書の改訂(③の活動で用いた経験を反映させる)
⑤近隣の他の医学部へのESDの紹介・資料提供 } 2009年度

成果 :

- **成果物** : 地域基盤型医学教育のなかでESDを実施するための手引書として以下を作成した。
 - ①「地域医療実習マニュアル(英語版Student's Guide)」: 学生用(実習目標・内容の概説)
 - ②「地域保健医療教育のためのFD教材(英語版Teacher's Guide)」: 実習担当教員の手引書
FDに利用可能…①、②とも、今後実際に使用して適宜改訂していく予定である(2009年度)
- **期待する成果** :
 - ①卒前医学教育にESDが導入され、ESDに関する教員の理解が深まる
 - ②SDの視点をもった医師の育成が進められる
 - ③学生の地域での活動を通して、地域住民にもESDが広がることを期待する。

文部科学省「国際協力イニシアティブ」
第2回国内報告会

持続発展教育(ESD)の理念に基づいた
途上国における地域医療教育モデルの構築

三重大学大学院医学系研究科
武田裕子

2009年3月10日

事業の背景

持続発展教育(ESD)の理念に基づいた
途上国における地域医療教育モデルの構築

持続発展教育(ESD)の理念に基づいた
途上国における地域医療教育モデルの構築

- 地域医療 Community Medicine
- 地域医療教育
- 地域基盤型医学教育(卒前・卒後研修)
Community-based Medical Education
(CBME)
- 地域医療教育と持続発展教育



持続発展教育(ESD)の理念に基づいた
途上国における地域医療教育モデルの構築

- 地域医療 Community Medicine
 - 生活に最も近いところで、継続して提供される身近な医療
 - 医療資源が乏しい地域では、医療機関における診療サービス(診断と治療)のみならず、
健康を支援する環境をつくり出すことが求められる

地域医療は、地域づくり



地域医療

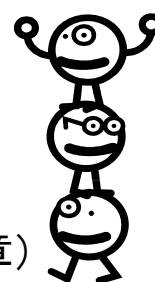
●健康とは

健康とは、日常生活の資源であって、人生の目的ではない。個人やグループがどれだけ希望をもち、ニーズを満たし、環境を変えたり克服したりできるかという程度を意味している。

●健康の前提条件

平和・住居・教育・食品・収入・
安定した環境・持続可能な資源・
社会的公正と公平

(1986年オタワ憲章)



持続発展教育(ESD)の中心となるスキル

- 想像力…よりよい未来像を描ける
- 現状を批判的に考える力と省察力
持続発展を促す観点から経済や社会の仕組み、文化をとらえることができる
- 体系的思考法
問題解決を図る上で、さまざまな方法を関連づける
- パートナーシップの構築
対話と問題解決のための話し合いを大切にするとともに働く方法を学ぶ、意思決定の場に参加する
- 意思決定の場に参加する
人々が自身をもって行動できるように支援する Empowering People

地域医療を担う医師に求められるスキル

地域医療教育と地域基盤型医学教育
Community-based Medical Education(CBME)



- 学生に文化や社会的背景の異なる人々と接する機会を提供する幅広い教育
- 特定の集団の健康課題や資源の再分配に関して取り上げることが多く、臨床知識や技能、自分の持つ能力や態度をもって総合的に取り組む
- 地域が学習の場となっており、地域のニーズに適った教育を提供する
- 教育体験には、学生、教員、地域住民、様々な機関の担当者が積極的に関わる
- 健康問題の予防・治療の場である「地域」に目を向ける
- 都会にも田舎にも「地域」は存在する

ESDに共通
するもの

地域基盤型医学教育の例
Community-based Medical Education (CBME)

- 診療所実習
- 地域の中核病院実習
- 地域の福祉施設の見学実習



地域基盤型医学教育の例 Community-based Medical Education (CBME)

- 地域診断 Community Assessment



- 地域プロジェクト Community Project



事業の目的・方法

持続発展教育(ESD)の理念に基づいた
途上国における地域医療教育モデルの構築

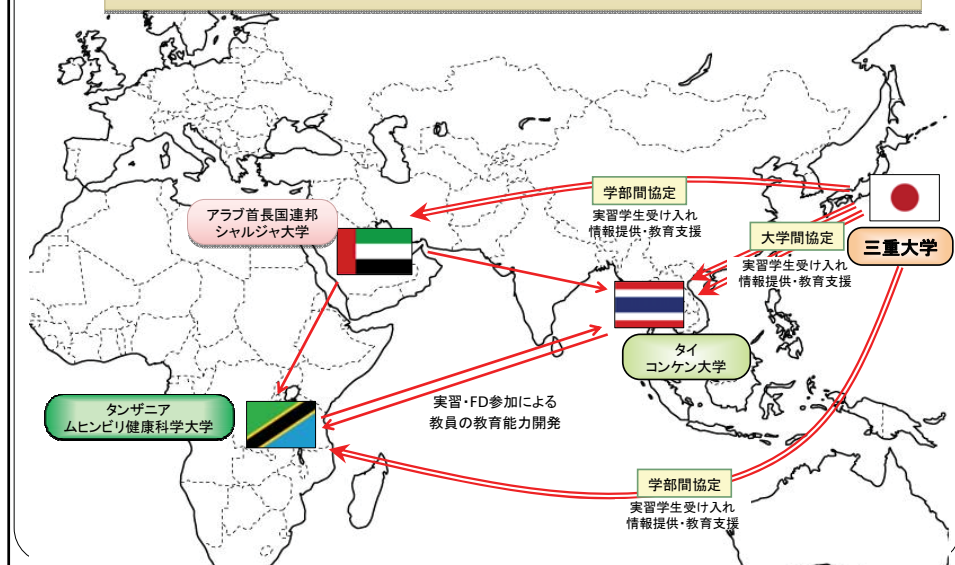
持続発展教育(ESD)の理念に基づいた
途上国における地域医療教育モデルの構築

目的

- 途上国の医学部で行われている地域医療実習(地域基盤型医学教育Community-based Medical Education:CBME)が持続発展教育(ESD)となるよう、モデル・カリキュラムを開発してその導入をはかることを目的としている。

- ▶ 学生は地域の環境、経済、社会、文化に目を向け、Health Advocateとしての医師の役割をより深く学ぶ
- ▶ 学生が、住民参加型の地域プロジェクトを展開することで、地域住民もESDに触れることになる
- ▶ 医学教育への協力が、住民のエンパワメントにつながる
- ▶ 将来、医療過疎地で働く医師の育成につながる可能性あり

ESDの理念に基づいた地域医療教育
(地域基盤型医学教育CBME)モデル構築



ESDの理念に基づいた地域医療教育 (地域基盤型医学教育CBME)モデル構築

参加大学(活動実施者)

三重大学大学院医学系研究科

タイ・コンケン大学医学部

タンザニア・ムヒンビリ健康科学大学

アラブ首長国連邦・シャルジャ大学医学部



国内の専門家(活動協力ネットワーク)

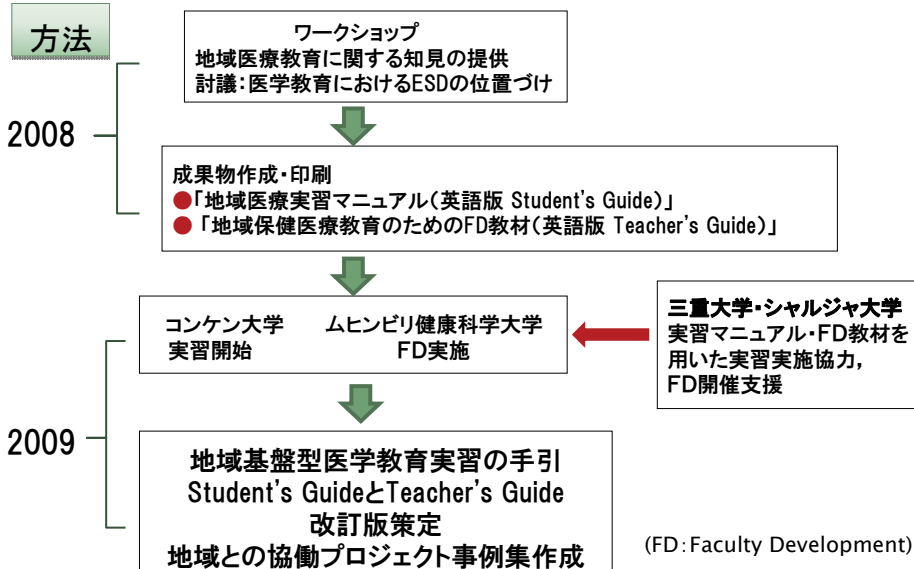
岡山大学大学院環境学研究科 山本秀樹先生

東京大学医学教育国際協力研究センター 錦織宏先生

名桜大学人間健康学部 小川寿美子先生

名桜大学研究機関Eugene Boostrom*先生(元世界銀行)
*WSのcoordinateならびにGuides監修を担当

持続発展教育(ESD)の理念に基づいた 途上国における地域医療教育モデルの構築



モデル・カリキュラムづくりのための ワークショップ開催 (Jan 18-23, 2009)

Lectures:

- 参加大学の地域医療教育カリキュラムの紹介 (各参加大学)
- ESDとは何か (岡山大学: 山本秀樹先生)
- カリキュラム開発の手法 (東京大学: 錦織宏先生)
- 実習学生の地域への貢献 (名桜大学: 小川寿美子先生)

Group Discussion:

- CBMEの到達目標・実習例とその改善法・教材例
- ESDはCBMEにどのような意味を賦与するか
- SDを推進するために学生が地域で行えるプロジェクト例
- 教員用CBME/ESD実習手引書(Teacher's Guide)作成
- 学生用実習マニュアル(Student's Guide)作成
- 手引書を用いた帰国後のアクション・プラン

Workshop to develop a community-based medical education module incorporating and promoting the concepts of Education for Sustainable Development (ESD)

Goal of the workshop: to develop a community-based medical education (CBME) module incorporating and promoting the concepts of Education for Sustainable Development (ESD)

Objectives of the workshop: During the workshop, the participants will:

- Share information regarding community-based medical education (CBME), including their own experiences and lessons learned regarding their medical schools' curricula, curriculum development, and CBME activities
- Consider the relevance, importance and implications of the concepts of Education for Sustainable Development (ESD) for medical education, and especially for CBME
- Define shared goals and objectives for CBME
- Based on the shared goals and objectives for CBME, *develop a draft module of locally-adaptable guidelines and materials (one set for CBME teachers/organizers and one for medical students) for CBME that incorporates and promotes ESD*
- Discuss potential pilot testing of the CBME-ESD module by their medical schools
- Draft an annotated outline for the report of/on the workshop

Tanzania医学部教員のコメント

- なぜESDが重要か、自分たちにはすぐに分かる。マラリアが、以前はみられなかった高地で発生するようになった。医師は、診断と治療をしていれば十分というわけではない。
- これまで、水は煮沸して飲むようにと指導してきた。これからは、この水をどれだけ遠くから運んできたか、煮沸の燃料に何を使うかを尋ね、たぎり減るのは惜しいという気持ちを理解して指導にあたりたい。
- 次の世代には飲む水さえもない、ということがあってはならないと学生たちに教えたい。
- 卒業生の多くは都会で働くが、学生時代に地域をつぶさに知る機会があれば、将来そこで働く意義を見出す学生が出てくるであろう。

Tanzania医学部教員のコメント

- I think it the curriculum will help to impart understanding of the community among students, and will serve as a strong foundation as a big part of the curriculum will be utilized for CBME before students are introduced to clinical rotation.
- The students will go into clinical rotations(rural clinical rotations if available) with good understanding of how to interact with and serve in those communities, where clinical rural rotations are not available students will not miss much as they have been exposed to the community extensively.

Tanzania医学部教員のAction Plans

List of activities

Immediately

- 医学部と所属部門(小児科)に参加報告を行う
- 地域医療学部門に連絡を取り、SDの視点を有した地域医療実習について情報提供する。

2009年2-3月

- 医学部学生協議会委員にSDについて情報提供
- 医学部学生にSDに関する情報提供, 自主的取り組みを促す
- 地域医療部門と新たなカリキュラムについて協議

2009年4月-

- ワークショップで作成したStudent's GuideとTeacher's Guideを配布
 - …ムヒンビリ大学 小児科・地域医療学部門
 - …他大学の地域医療学部門
- ムヒンビリ医科大学におけるCBME/ESD ワークショップの開催準備

Thailand医学部教員のコメント

- これまで、学生を地域に2週間出して、地域診断と地域プロジェクトを実施する地域基盤型医学教育を行ってきたが、Sustainable Developmentの視点は全くなかった。今後の地域医療実習の新たな枠組みを得ることができた。
- 学生が実習に行く村に、“昔はお金を使って他所から食料を購入し借金を増やしていたが、現在は完全な自給自足を達成したところ”がある。毎年、自分が引率して見学に行っていたが、今回のWSで、この実習で何を学生に学んでもらったらよいのかよくわかった。
- 学生の活動は住民とともに企画立案するものである。実習は、住民にとってもESDを学ぶ機会となるであろう。学生が始めたプロジェクトの継続性も検討したい。

Thailand医学部教員のAction Plans

- Sustainable Developmentをグループで考えさせる教材(シナリオ)作成(1-4年生)
- 教員にも作成したシナリオを配布する(FDの実施)
- 学生の学習過程ならびに到達度をモニターする評価法を検討

開始時期

- 2009年 6月: 1年生-新カリキュラムで、SDを紹介
- 2009年 3月: 2年生-地域診断の過程に、SDの視点を導入
- 2009年 10月: 3年生-地域活動にSDを導入,学生ガイドを活用
- 2010年 4月: 4年生-持続発展性を考えた自給自足の模範的村落を訪問する際の学習ガイドを作成
- 2010年 4月: 5年生-地域プロジェクトに適したテーマのリストを作成する

最終成果物

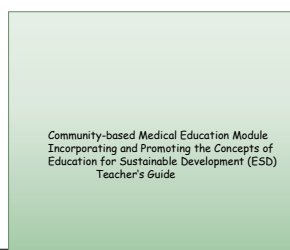
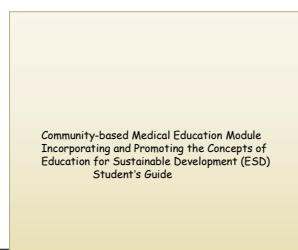
持続発展教育(ESD)の理念に基づいた
途上国における地域医療教育モデルの構築

Version 1.0

最終成果物

地域基盤型医学教育(CBME)のなかでESDを実施するための手引書として以下を作成した。

- 地域医療実習マニュアル「**Student's Guide**」英語版
学生用: 実習目標・内容・評価法等について概説
- 地域保健医療教育のためのFD教材「**Teacher's Guide**」
実習担当教員用の手引書, FD教材として使用可能
実習準備(地域の選定, 事前の地域への協力依頼)
実習の進め方・指導のポイント・評価法など



今後の期待



- タイ・コンケン大学では、ESDの導入により既存の地域医療実習にSustainable Developmentの視点が入り入れられ、地域基盤型教育の充実が図られる
- タンザニア・ムヒンビリ大学では、学内外の医学部教員にESDの考え方、授業への活用に関するFDを開催予定。可能ならコンケン大学に視察に赴く。
- ESDに対する教員の理解が深まり、SDの視点をもった医師の育成が進められる
- 学生の地域での活動を通して地域住民にもESDが広がることを期待する
- 三重大学とシャルジャ大学は、コンケン大学とムヒンビリ大学の取り組みを支援する

